処分基準 (不利益処分関係)

				資料番号	4-1		担当課	障がい福祉課
法令名	児童福祉法施行令	根拠条項	第4	4条の12第	不利益処	指定	指定事務受託法人の指定の取	
			1項		分の種類	消し等		

(根拠規定)

○児童福祉法施行令(昭和23年3月31日政令第74号)

〔指定事務受託法人の指定の取消し等〕

- 第四十四条の十二 都道府県知事は、指定事務受託法人が次のいずれかに該当する場合には、 その指定を取り消し、又は期間を定めてその指定の全部若しくは一部の効力を停止することができる。
 - 一 指定事務受託法人が、法第五十七条の三の四第一項に規定する厚生労働省令で定める 要件に該当しなくなったとき。
 - 二 指定事務受託法人が、第四十四条の九に規定する市町村等事務の運営に関する基準に 従つて適正な市町村等事務の運営をすることができなくなつたとき。
 - 三 指定事務受託法人が、第四十四条の八第二項第二号、第三号又は第七号のいずれかに 該当するに至つたとき。
 - 四 指定事務受託法人が、前条の規定により報告を求められて報告をせず、又は虚偽の報告をしたとき。
 - 五 指定事務受託法人が、不正の手段により法第五十七条の三の四第一項の指定を受けた ことが判明したとき。
 - 六 指定事務受託法人が、法及び第二十五条の十二第一項各号若しくは第二項各号(第三号を除く。) に掲げる法律又はこれらの法律に基づく命令若しくは処分に違反したとき。
 - 七 指定事務受託法人が、市町村等事務に関し不正又は著しく不当な行為をしたとき。
 - 八 指定事務受託法人の役員等のうちに、その指定の取消し又はその指定の全部若しくは 一部の効力の停止をしようとするとき前五年以内に障害児通所支援若しくは障害児相談 支援又は市町村等事務に関し不正又は著しく不当な行為をした者があるとき。

[指定事務受託法人]

第四十四条の八 (省略)

- ③ 都道府県知事は、前項の申請があつた場合において、次のいずれかに該当するときは、 法第五十七条の三の四第一項の指定をしてはならない。
 - 一 (省略)
 - 二 申請者が、障害児通所支援又は障害児相談支援を提供しているとき。
 - 三 申請者が、法及び第二十五条の七第一項各号又は第二項各号(第三号を除く。)に掲げる法律の規定により罰金の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなるまでの者であるとき。

四~六(省略)

七 申請者の役員等(法第二十一条の五の十五第三項第六号に規定する役員等をいう。ハ 及び二並びに第四十四条の十二第一項第八号において同じ。)のうちに次のいずれかに該当する者があるとき。

- イ 禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなるまでの者
- ロ 第二号又は前号に該当する者
- ハ 第四十四条の十二第一項の規定により指定を取り消された法人において、その取消 しの処分に係る行政手続法第十五条の規定による通知があつた日前六十日以内にその 役員等であつた者で当該取消しの日から起算して五年を経過しないもの
- 二 第五号に規定する期間内に第四十四条の十第一項の規定による市町村等事務の廃止 の届出をした法人(当該市町村等事務の廃止について相当の理由がある法人を除く。) において、同号の通知の日前六十日以内にその役員等であつた者で当該届出の日から 起算して五年を経過しないもの

[市町村等事務の運営に関する基準]

- 第四十四条の九 法第五十七条の三の四第一項に規定する指定事務受託法人(以下「指定事務受託法人」という。)は、厚生労働省令で定める市町村等事務の運営に関する基準に従い、市町村等事務を行わなければならない。
- ○児童福祉法施行規則(昭和23年3月31日厚生省令第11号)

[指定事務受託法人の要件]

- 第四十八条 法第五十七条の三の四第一項の厚生労働省令で定める要件は、同項第一号に規定する事務(以下この条において「質問等事務」という。)については、次のとおりとする。
 - 一 質問等事務を適確に実施するに足りる経理的及び技術的な基礎を有するものであること。
 - 二 法人の役員又は職員の構成が、質問等事務の公正な実施に支障を及ぼすおそれがないものであること。
 - 三 質問等事務以外の業務を行っている場合には、その業務を行うことによって質問等事 務の公正な実施に支障を及ぼすおそれがないものであること。
 - 四 前三号に定めるもののほか、質問等事務を行うにつき十分な適格性を有するものであること。